

## ジオ太とジオ美の旅

### ⑧ 滝の頭(たきのがしら)湧水

「夏は涼しいジオスポットに行こうよ」と、ジオ太くんの提案に「それじゃ、滝の頭の湧水だわ」とジオ美ちゃんも大賛成。さっそく寒風山北東部の麓にある湧水・滝の頭に出発しました。

杉の巨木やエメラルドグリーン沼を過ぎると心地よい爽風が頬をかすめます。見えてきました。総湧水量が1日・2万5000トンの「滝の頭」湧水です。湧水を少し口に含むと「わっ、冷たくておいしい」「生き返ったあ」と2人は思わず叫んでしまいました。それもそのはず。寒風山は溶岩でできた火山。その溶岩の割れ目に雨水が浸み込み汚れやゴミが濾過され、その後天然の地下ダムに溜まり、そして20年の時を経て湧出したものです。飲料水や農業用水として地域の人々の生活を支えています。

水温を計ると11～12度Cありました。「体温より20度～25度低いとおいしいというからね」とジオ太くん。寒風山の麓には、湧水が30か所あり、滝の頭の湧水量が全体の70%を占めます。「湧水がたくさんあるのは寒風山に大きな自然の水瓶があるのね。寒風山が噴火する前に淡水湖があったようだからそれが関係しているのかなあ」とジオ美ちゃん。滝の頭の水量が多いのは基盤の高度が関係しているようです。

滝の頭の湧水を活用した先駆者と言えば江戸時代の秋田の偉人・渡部斧松です。当時、原野だった払戸村鳥居長根に滝の頭から水路を引いて豊かな水田地帯に変えました。「先達の努力が今も生きているのね」とジオ美ちゃんは感慨深い様子。

ジオ太くんは「滝の頭の湧水は、火山の恵みなんだね。大事に飲まなくちゃ」と、自分に言い聞かせるようにつぶやきました。2人は先達の努力や自然の恵みに感謝しながら晴れ渡った空を見上げました。

